

都市像のタイトルについて

1 第3回審議会でお示ししたタイトル

自然も都会も、歴史も未来も、仕事も余暇も、安らぎも挑戦も・・・
～すべての望みに手が届くまち・神戸～

神戸空港や神戸港は、世界とつながる玄関口。そこには、絶えず人やモノ、情報が集まり、多様な文化が行き交うことで、新たな風が吹く。

都心には、おしゃれで心地よい雰囲気と、温かなもてなしの心があふれる。周辺に広がる交通網によって、人と人の出会いと交流が生まれ、まちの魅力がさらに深まる。

暮らし息づく街では、個性豊かな駅を中心に、それぞれの理想のライフスタイルが形となり、ゆとりある上質な時間が流れる。

山から望めば、先人から受け継いだ農村や里山、豊かな自然が悠然と広がり、夜には世界に誇れる美しい夜景が幻想的に彩る。海に向かえば、汽笛や潮風に迎えられ、ジャズを育んだ港町の歴史と文化芸術にふれながら、贅沢な時間に包まれる。食は、自然の恵みと人に育まれ、いつでも人々の心を満たす。

しごとや学びの場では、経験と新たな挑戦が融合し、未来を切り拓く力がみなぎる。街のいたるところで、異なる世代や多様な人々が集い、支え合い、こどもたちの笑い声と皆の笑顔があふれ、まちのあたたかみが安らぎをもたらす。

人々の暮らしは、困難を乗り越え、築いてきた、たくましい礎によって守られ、それぞれの環境を思いやる行動が、次世代への安心を生み出す。

そして、まちの誇りは、神戸を愛する人々の心によって育まれ、力強く次代に紡がれていく。

2 これまでの議論

- ・現行案は高望みの感がある。
- ・端的に示すべき。
- ・(他都市の様に) 行政目線のタイトルは今回の策定経緯を踏まえると不適。
⇒ 前回に引き継ぎ、今回継続審議

(参考：基本構想のキャッチコピー検討時の議論（審議会）)

- ・キャッチコピーは必要ないと思う。神戸の魅力は多彩で一言で表現するのは難しい
- ・神戸は非常に多彩なまち。今後そういう側面が大事になってくると思う。そう言う意味では、私もキャッチコピーはつけなくても良いと思う。

3 変更案

2035 年の神戸

(ポイント)

- ・現在の文章は市民の様々な想いが収斂された結果であるため、更に文章を収斂したタイトル設定は困難
- ・これまで市民や関係者と共に“2035 年の神戸”をテーマに議論してきた事実を表現

(参考) 他都市の計画タイトル事例

都市	計画周期	タイトル
福岡市	2025～2034	住みたい、行きたい、働きたい アジアの交流拠点都市・福岡
北九州市	2024～2040	つながりと情熱の技術で、 「一步先の価値観を体現する」 グローバル挑戦都市・北九州市
名古屋市	2024～2040	リニアがつなぐ巨大交通圏の中心で躍動する都市、 誰もが幸せと希望を感じられる名古屋
熊本市	2024～2031	上質な生活都市
千葉市	2023～2033	みんなが輝く 都市と自然が織りなす・千葉市
札幌市	2023～2030	「ひと」「ゆき」「みどり」の織りなす輝きが、 豊かな暮らしと価値観を創る、持続可能な世界都市・さっぽろ
静岡市	2023～2030	「世界に輝く静岡」の実現

(参考) 前回審議会資料（一部改変）

ワークショップでの意見

・37グループが共感（319グループ中）

・16グループが修正要望の付箋

- ・愛が芽生えるまち
- ・住むだけで幸せなまち
- ・すべての夢がかなうまち
- ・届くのではなく、自分たちでつかむ
- ・望みが見つかる（気付く）
(高望みをしそう)
- （努力をしなくても良い印象）

委員事前意見

① タイトルに込めるべき思い等

- ・「与えられる」イメージではなく、市民が能動的、主体的、挑戦的に取り組むことができる事を表現すべき
- ・「小さな夢がかなう」「みんなが応援しあえるまち」など、個人が自分のやりたいことをやってもらちゃんと回っている、というのが神戸の良いところ
- ・もっと短く端的にした方が良い
- ・都市像の最後の2行「そして、まちの誇りが、…紡がれていく。」の具体化

② 新しいタイトル案

① ひらかれ、つながり、育まれるまち・神戸

② 一往百彩のまち・神戸

いつも新たな風が吹く 希望にあふれたまち

豊かな自然に囲まれ 文化的香り高いまち

③ すべての人が安心して安全に暮らせるまち
誰もが誇りを持てるまち
未来に向かって学び、働くまち

③ 修正したタイトル案

④ あらゆる望みに手が届くまち・神戸

⑤ すべての人が夢や希望をもち、それに近づくことのできる神戸

⑥ すべての人に望みが届き、安らぎと希望が感じられるまち・神戸

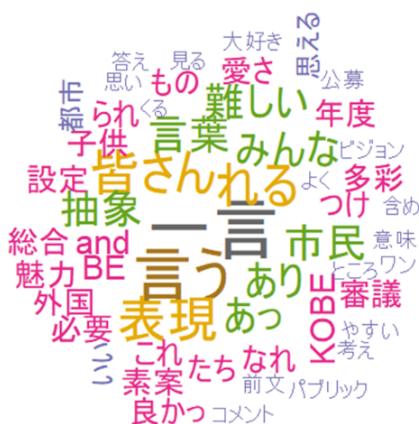
WEBアンケートでの意見

- ・ そういうれば神戸には何でもあるなと思いました。
恵まれたまちに暮らしていると改めて気付かされました。
- ・ それぞれの思いや考え方があるなかで、どの人にも希望が持てるまち、多様性と希望がある感じがしてよいと思った。
- ・ 導入から印象的で、いいと思います。

(参考) 令和6年度第1回審議会議論抜粋

基本構想スローガンに込める想い等について議論（議事要旨より抜粋）

令和6年度第1回神戸市総合基本計画審議会



- ワンメッセージが必要ではないか。
例えば、「みんながずっと大好きな神戸」とか「大好きなまちへ」はどうか。抽象的だが、色々な思いを一言で集約していると思う。
- 個的には神戸は多彩な表情、多様性など一言で表せないまちだと思う。
例えば、英語で言う「and」を使い、都会と海と山、外国と日本らしさなど、全て「and 何々」というまちであり、and のまちだと感じる。
- 私はスローガンは必要ないと思う。神戸の魅力は多彩で一言で表現するのは難しい。
- 神戸は港があり、山もあり、下町もあり、農村地区もあり、それを一言で表現するのは難しい。
- 神戸は非常に多彩なまち。人口も 150 万人を切っているなか、神戸の魅力をどう表したらいいのかというには、これまでの神戸とは違う局面が必要になってくる。ここに来る人たちが心温まる、癒される、オンリーワンのまち。そういう側面が大事になってくると思う。そういう意味では、私もスローガンはつけなくても良いと思う。
- 具体的に答えられないのに、なぜ神戸らしさという言葉を使うのかという話をよくするが、この素案（基本構想）を見ると、これが神戸らしさだと感じる。そういう神戸らしさという表現の仕方があってもいいのではないか。
- 神戸の魅力を全部一言で言うのは難しいので、スローガンは抽象的な方が良いと思う。「もっとずっとみんなに愛されるまち神戸」とかっとずっと愛されるまち神戸など、ふわっとしているが、みんなそうだよと思えるものが良い。

(参考) 掲出イメージ

3 第6次神戸市基本計画

(1) 10年後の都市像

① “ともに描いた 10 年後の神戸”

以下の都市像は、神戸市基本構想に掲げた基本理念や“神戸らしさ”を踏まえ、多くの市民・関係者とともに描いた 10 年後（2035 年）の神戸のありたい姿です。

人口減少や社会構造の変化が進む中であっても、この都市像を市民・行政等の多様な主体と共に、共通の目標をもって、ともにまちづくりを進め、海と山に象徴される豊かな自然や、歴史とともに歩んできたまちの誇りを次代へと紡いでいきます。

2035 年の神戸

神戸空港や神戸港は、世界とつながる玄関口。そこには、絶えず人やモノ、情報が集まり、多様な文化が行き交うことで、新たな風が吹く。

都心には、おしゃれで心地よい雰囲気と、温かなもてなしの心があふれる。周辺に広がる交通網によって、人と人の出会いと交流が生まれ、まちの魅力がさらに深まる。

暮らし息づく街では、個性豊かな駅を中心に、それぞれの理想的なライフスタイルが形となり、ゆとりある上質な時間が流れれる。

山から望めば、先人から受け継いだ農村や里山、豊かな自然が悠然と広がり、夜には世界に誇れる美しい夜景が幻想的に彩る。海に向かえば、汽笛や潮風に迎えられ、ジャズを聴いた湯町の歴史と文化遺産に流れながら、贅沢な時間に没まれる。食は、自然の恵みと人に育まれ、いつでも人々の心を満たす。

しごとや学びの場では、経験と新たな挑戦が融合し、未来を切り拓く力がみなぎる。

街のいたるところで、異なる世代や多様な人々が集い、支え合い、こどもたちの笑い声と音の笑顔があふれ、まちのあなたがみが安らぎをもたらす。

人々の暮らしは、困難を乗り越え、築いてきたたくましい礎によって守られ、それぞれの環境を思いやる行動が、次世代への安心を生み出す。

そして、まちの誇りは、神戸を愛する人々の心によって育まれ、力強く次代に紡がれていく。



第6次神戸市基本計画